佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
（大樹生命佐賀駅前ビル4F）
電話　0952(29)1933
FAX　0952(23)5218
HP　http://saga-doc.jp
✉hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料　1部　200円
送料込　年間2,400円
（会員の購読料は会費に含まれています）

市民公開講演会

社会保障の危機

住江 憲勇 氏

8月30日（土）、佐賀市のガーデンテラス佐賀にて第44回佐賀県保険医協会定期総会の後、市民公開講演会として住江憲勇氏（全国保険医団体連合会名誉会長）を講師に、「社会保障の危機」をオンライン配信を併用して開催しました。医師、歯科医師、一般の方のご参加は、オンライン・会場合わせて64人でした。以下、参加者からの報告です。

佐賀県保険医協会は誇らしい事に全国保険医団体連合会・住江憲勇会長（当時）から表彰されています。

表彰状は額に入り協会事務所の部屋を照らしています。その住江先生のご講演は、実に内容豊かで流石と納得しました。将来に希望の光を見る想いでした。更に資料の立派さと量に驚きました。

配布資料の表紙に「社会保障の危機　№8」とあり、次ページの自己紹介では何と1945年8月15日の敗戦から始まっています。翌1946年11月3日、日本国憲法公布とあり、平和主義・国民主義・基本的人権と進み「1947年5月3日　日本国憲法実施」とあり、平和憲法への思い入れと濃さが行間から香るようです。そして翌1948年2月11日、住江憲勇誕生とあり　吃驚!!

私事乍ら同じ誕生日!!生年は違いますが…。その下に「日本国憲法がどれだけ日本国民を勇気づけたか!!」と感嘆詞2本が強い想いを告げているようです。分厚い資料を数えたら17枚!!　しかも各々が充実した資料ですので、大切に保存し繰り返し読み、参考と教訓にします。

住江先生のご講演の感想を書くよう事務局からの電話にNOと言えなかったことに反省しきりです。兎に角、目から鱗の名講演でした。

講演会場に参加された方々には資料が渡されましたが、不参加の方で読みたいと思われる会員の先生は、事務局に申し込めば郵送できるそうです。

（佐賀市　太田　記代子）

【参加者アンケート】（一部抜粋）

・日本の社会保障をめぐる問題点を歴史的に、たたかいの側面から明らかにして、今日的な課題も示していただきました。（60代）

・日本国憲法や社会保障の歴史がよく分かりました。いろいろな数字データを基にお話しされたので説得力がありました。「剰余価値は一時預かり」、「財源はある」というような力強いお言葉もありました。企業の在り方が生態系や自然破壊ともつながっていることにも改めて気づかされました。お医者さんがこれほどまでに真剣に国民のこと、社会のことを考え情報も把握しておられることに驚きました。（60代）

・社会保障の必要性について大変、良いお話しを聞かせていただきました。税制大改革し、社会保障の充実を図ることが国民の生存権に重要かと再認識いたしました。（年代不明）

・「憲勇」先生の人類愛に満ちた、社会保障危機・医療分野からの視点で解明されたお話でした。お聞きしていて勇気もいただきました。人類史の発展をしっかりみていくことが、多くの人々に伝わればいいと思います。そして「統一と団結」の大切さを自覚していくことが大事ですね。今日の時点からみた「資本主義論」としておもしろくお聞きできました。（70代）

歯科研究会

歯科医が知っておきたい健診結果と注意すべき消化器疾患

8月8日（金）佐賀市アバンセにて、中山利浩先生（当会会長）を講師に、歯科研究会「歯科医が知っておきたい健診結果と注意すべき消化器疾患」をオンライン配信を併用して開催しました。会場は5医療機関から6人、オンラインでは20医療機関から25人の参加がありました。以下、参加者からの報告です。

8月8日（金）にハイブリッド形式で行われた歯科研究会に参加した。中山利浩当会会長が講師を務め、「歯科医が知っておきたい健診結果と注意すべき消化器疾患」をテーマに、日常診療で汎用されている血液一般・生化学検査を基に、血液検査データの読み方をはじめ、歯科治療時に注意すべき疾患について分かりやすく解説された。

歯科治療は、歯周治療（スケーリングなどの歯石除去など）や抜歯、膿瘍切開などの消炎処置といった観血的処置が多く、出血管理や止血に関して配慮を要する。加えて、抗菌剤や解熱鎮痛剤の処方も日常茶飯事であり、患者の全身状態を考慮しながらの処方内容、処方量の選定を行う必要がある。急速に高齢化が進んだ現在、多くの全身疾患を抱えた高齢患者の治療にあたる機会も増加の一途を辿り、全身状態を理解した上での診療が非常に重要となる。

一般検査では、白血球の増減および顆粒球や単核球、リンパ球など末梢血液像が示す病態、貧血、出血傾向について解説、生化学検査では、肝機能、腎機能、脂質異常、糖代謝について話された。処置後の止血に関しては、ワーファリン・ヘパリン・DOACの抗凝固治療を受けている場合はPT-INR（2・0前後でコントロール）を注視、肝機能障害のある場合や高脂血症治療薬では血液凝固が不良になることに留意が必要とのことであった。

また、腎機能障害がある場合は、解熱鎮痛剤により腎機能のさらなる悪化を起こすことがあるため、処方後の尿量の減少などの体調の変化を見逃さないようにすることも重要である。ウイルス性肝炎に関しては、検査値とウイルス活性の状況、歯科治療時の感染防御の重要性に加えて、近年発症が増加している豚肉やジビエの生食が原因となるE型肝炎についても教示いただいた。

歯学部の講義では、内科学や歯科麻酔学で全身管理に関して習うものの、卒後、口腔外科や歯科麻酔科を専攻しない限り、全身管理を要する診療に従事する歯科医師は少ないのが現状であるため、今回の講演が先生方の日常診療の一助になれば幸いである。

（多久市　梅津　健太郎）

講師の中山利浩先生

協会会員数

医科	640人
歯科	320人
合計	960人

（8月31日現在）

主な記事

・歯科新規開業医講習会……2面
・2024年度　個別指導における指摘事項等（歯科）……2～3面
・保団連　組織担当者交流会……4面
・労務管理「よく休むパート職員の年次有給休暇」……6面
・第40回保団連医療研究フォーラム　佐賀開催のお知らせ……8面

曙

▼「曙」は本来「夜が明け始める頃」や「新しい時代が始まること」を意味するので、国によって事情が異なり、その分タイムラグが生じる▼地球規模でいうと既に経済発展を終え、これからは成長より衰退しか見込めない日本などの先進国のグループである主要国首脳会議G7に対し、ブラジル・ロシア・インド・中国などの10カ国からなる国際会議BRICSには舵取り次第で成長の余地がある。特にインドは14億人を超える世界一の人口を背景に急速な経済成長が見込まれる。日本や中国が不動産バブルにより「曙」を収束させてきたが、インドでも高層マンションが人気で、既に少子化が進みつつある▼さて、9月に中国で上海協力機構（SCO）首脳会議が開催された。会議には、インドのモディ首相もロシアのプーチン大統領と共に出席した。一方で、インドは中国の海洋進出を念頭に作られた安全保障や経済を協議する枠組みQuad（米国、豪州、日本＋インド）の一員だ。ウクライナ戦争が始まって以来、インドはロシア産石油を大量に購入し、戦争資金の援助をしてきた。そこで、トランプ大統領はインドの関税率を50％にまで引き上げ、ロシアへの経済制裁をより強いものにした。インドとロシアとの関係は歴史的にも緊密で、制裁の効果は疑問視されているものの、「曙」の持続のためにはひと工夫必要だろう。

（武雄市　田中　裕幸）